



新湾岸道路建設計画など



東京湾岸の埋め立て地



第二湾岸道路計画



市川市の人工干潟計画



新湾岸道路計画

三十年ほど前に第二湾岸道路を建設する計画が作られたが、これは貴重な動植物の生息域である三番瀬の埋め立てを伴うものであり、県民の根強い反対運動が起きて中止に追い込まれた。しかし近年、国や県によって再び新たな湾岸道路の建設計画が立てられ、問題になっている。この計画では二つのルート案が示されているが、いずれにしても莫大な事業費がかかるうえ、振動や騒音、大気汚染などの被害を及ぼすことになる。

一方で、市川市が塩浜地区の海辺に人工干潟を造成する計画を立てている。その目的は、このあたりに賑わいエリアを生み出す客集めの手段として利用する目論見のようであるが、航路に堆積した汚染土砂の投入を伴うことによって青潮を発生するなどの弊害を引き起こす恐れがある。

(図：「自然通信ちば」より 文：三国政勝)

仕事ウォッチングー J R東金駅東口に改札口ができました

(有)稗田総合建築設計事務所・稗田忠弘

J R東金駅東口に市民待望の改札口ができました。J R線の東側に国道 126 号線のバイパスが通ってから街の中心が東口側に移り、旧市街側の西口へ渡る大きな階段はお年寄りなどにはかなりの負担になっていました。東口に改札口ができるのに併せてトイレと待合所をつくる計画で、その設計をさせていただきました。

この仕事は入札による受注です。きっかけは役所から設計料の予算取りのための参考見積を頼まれたことで、見積もった責任として入札した結果です。

規模と内容から当然木造だと思っていたのですが、打ち合わせは構造方式の選定から始まり、白紙の状態でのスタートでした。ならば、ということでサンプスギで地産地消で造りませんかと提案してみました。木造の耐久性やサンプスギの入手方法など、不安が多かったようですが納得してもらいました。隣の山武市では林業から木育まで専門の職員がいて利用促進をしているのとは大きな違いです。

サンプスギで造ることが決まってからは、設計図の特記仕様書にサンプスギを明記して、人工乾燥はせず適度な含水率を許容し、JASS の認定は求めないことなど、地産地消のメリットを生かす内容にしました。



外 観

計画は JR の改札口の設計が優先で、待合室とトイレはそれに合わせる形です。待合室の前のピロティは設計の要求には無かったものですが、このスペースこそ計画の要だと思って提案しました。構造材から仕上げまで可能なものはすべてサンプスギです。サンプスギのトイレブースは乱暴に使われないかと不安もありましたが、スギの美しい生地には愛着を持って接してもらえらるだろうと信じることにしました。工事監理の期間は不安の連続でした。プレカット慣れた大工さんに仕口や継ぎ手の指示をし、こんな建物では露出配線が当たり前という電気屋さんには方法を指示したり、目が離せない毎日でしたが私の事務所が近かったことに救われて何とか乗り切りました。



ピロティから駅



軒先

工事中は仮囲いで覆われていて完成してゆく姿を俯瞰的に見にくいのは仕方ないことですが、仮囲いが取れて初めて気づくこともあります。駅前のロータリーという周囲のスケールに合わせて、もっと伸びやかな形もあったのではないかと反省しましたが、少し時間が経った今こう考えています。私の中にある未来のイメージは、6割もの食料を外国に依存しながら成長を続ける社会ではなく、縮小し自給自足へ向かってゆく社会です。そうでなければ地球規模の不公平はいつまでも解消しません。そんな自分から素直に出てくる回答はやはり地産地消のヒューマンなスケールの建築づくりなのだ。



多機能トイレ



男子便所

2. エクス・アン・プロヴァンス

前回のニースから次に向かった町はエクス・アン・プロヴァンス(以下エクス)。この町はニースの西マルセイユの 30Km ほど北に位置します。人口は約 14 万 2000 人で、ローヌ県の古都。紀元前 2 世紀頃造られた古代ローマの町が起源とのことです。「エクス」は水の意で別名「千の泉の街」といわれ、町には噴水がなんと 100 以上あるとのことです。

画家セザンヌ生誕の地と知られ、臨終の家やアトリエが現存しています。観光客で大変人気なスポットの一つです。また町の中心には「世界で最も美しい通り」といわれるミラボー通りがあります。

ここから約 60 km 北西のリュベロン地方メネルブ居住の英国人作家ピーター・メイルによって、彼の著作「南仏プロヴァンスの 12 ヶ月」でプロヴァンスの名は一躍有名になりました。

以下、エクスの見所をご紹介します。

ミラボー大通り

町のシンボルであるロンド大噴水(後述)から東にあり、長さ約 500m の大通りである。目抜き通りであるこの通りの北側が旧市街、南側には旧貴族の館が続く。17 世紀に城壁を壊した跡に四輪馬車用の道として建設され、「パリに次ぐ麗しき都」と称賛された。樹齢 500 年のプラタナスの並木沿いに、17 世紀の貴族の邸宅が建ち並ぶ(写真①)。エクスの町を象徴する通りで、おしゃれなカフェ、レストランが軒を連ねる(写真②)。通りというより広大な線状公園のようである。ある旅行誌の解説ではミラボー公園と呼んでいる。

訪れた日は歩行者天国で朝市が開催されており、凄い賑わい。青果を初め花卉や古本、家具、工芸品など多彩な市が開催されていた(写真①)。この町では市庁舎広場など市内各所で、何らかの市が毎日催されているとのこと。



「千の泉の街」噴水

泉の街を象徴するのがド・ゴール広場のロンド大噴水(写真③)。この東側にプラタナス並木の美しいミラボー大通りが続く。

ラテン語のアクア(水)から転訛したエクスの名が示すとおり、街中の至る所に大小の噴水が湧き出しているという情報があった。かつては生活用水の水場だったと思われる。たしかに街角で多くの噴水が見られたが、いずれも止まっており期待外れ、理由は不詳(写真④)。

町のシンボル、ド・ゴール広場のロンド大噴水だけが唯一水しぶきを上げていた。



市庁舎

旧市街の中心にある17世紀建造の「市庁舎と立派な天文時計塔」は、ロンド大噴水と共にエクスのランドマーク的存在(写真⑤)。なんと市役所は今も現役とのこと。時計塔の時計は、太陽や月、十二宮の星座の位置など同時に表示する機械式時計である。中世ヨーロッパの時計塔や市庁舎時計として発達し、現在も観光名所として残っている例は多いという。(天文時計として、プラハの旧市庁舎塔が有名)



宿泊ホテル des Augustins

旧市街の中心部にある滞在したホテル。有名なミラボー通りから少し北に入った所にあり、12世紀には修道院だったという建物。写真⑥は歴史的建物にモダンなデザインを取り入れながら建築様式が融合し、当時の面影を残したロビー。ロマネスク様式の教会の中に入ったような荘厳な雰囲気。また通りから見る建物は、まったくホテルとは思えない外観であった。このようなホテルに滞在できるのは、個人旅行の醍醐味である。



旧市街のレストラン街：

フランスの食事情は、食事時間のみ営業のレストランと、常時手軽に利用できるカフェの二通りがある。レストランでは食事の時間以外は営業していない。また、注文はセットメニューが一般的のようである。準備中は、グラスやホークなどテーブルセットがおしゃれに用意されている。

一方カフェは、いつでも飲食ができ価格もリーズナブルで気軽に利用できる。写真⑦は、旧市街の複数の路地が合流してド・ゴール広場につながる所で、この一体はカフェが連なる。

夕方になると必然的に人々が集まる。夕食前はワインやビールでしばらく会話をを楽しむ人達、これがフランス流のようだ。皆さんドリンクのみでひたすらおしゃべり。フランス人はすこぶるおしゃべり好きという。それから20時頃にディナーとなる。



本多昭一さんを偲ぶ

新建設立当初から全国事務局長、代表幹事を務め、新建を導いてきた本多昭一さんが本年1月に逝去されました。本多さんと千葉支部の関わりで思いだされるのが、1981年国際障害者年に合わせて千葉支部会員がかかわった「障害者が住みよいまちづくり運動」について、若き日の本多さんが取材に訪れた時のことです。この運動は全国的に取り組みられていましたが、新建千葉支部はとりわけ熱心に取り組んで、「障害者が住みよいまちづくりを目指して点検報告書」を発行しました。本多さんはその情報を得て、某建築誌の記事を書くために取材にみえたのです。対応は私がしました。当時本多さんは東大生産研究所の研究員でしたが、私のような若輩者に誠実で真摯な取材をされたことが今でも思いだされます。点検報告書の中に、駅の階段の手すりの端部を曲げておくという表現があったのですが、なんで曲げておくのですかと聞かれました。視覚障害者が手すりをつかんで移動していると切りっぱなしだとスポッと抜けて危ないと説明したら、なるほどとえらく感心していたことを覚えています。その後本多さんは新建の中心としてますます活躍されました。私も全国幹事事務局員として導いていただきました。

享年 87 歳、ご冥福をお祈りします。(加瀬澤)

* 企画予定表 *

月	支部企画	その他企画	全国・他支部企画	その他
5月	2(土) 千葉建築・街並探訪 柏周辺			14(木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
6月				11(木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
7月	仕事を語る会			9(木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
8月				13(木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会

【旅の思い出スケッチ No20】

鈴木 進

● 国外編 (イタリアその1 ローマ市内)



新建ちば 288 号のスイス編で書いたが、1975 年にヨーロッパの都市政策調査目的のツアーに夫婦で参加した。イタリアではローマ、ミラノ、フィレンツェ、ボローニアなどを廻った。ローマ市内は至る所に遺跡が残っている。古代ローマの元老院の建物などが残るフォロロマーノで一日ゆったり過ごしたり、「ローマの休日」でとても印象的だった真実の口に入れたりした。

コロッセオも見ごたえがあった。スペイン広場に行き、近くにあるゲーテなども来たという 1760 年創業の喫茶店カフェ・グレコにも行った。初めての海外旅行だったので、どこを訪れても「興奮」の連続だった。ボローニアでは、市役所に立ち寄り都市政策などについて、担当者に聞く機会があった。内容はすっかり忘れてしまったが・・・。

○支部幹事会

毎月第2木曜日夜8時からZOOMで開催しています。支部の企画について話し合うことと支部機関誌「新建ちば」の編集会議をしています。支部会員は自由参加ですので是非ご参加ください。「新建ちば」は会員の日ごろの仕事、活動を紹介することを主にしています。皆様の投稿を期待しています。個別に声をかけさせていただきますので、ご協力ください。今年の企画については「仕事を語る会」を今年も実施し、しばらく休んでいた「建築・街並み探訪」を再開します。第一段は5月2日柏の葉キャンパス実施しました。やっぱりリアルはいいですね。報告は次号にて。

○WEBちば塾

幹事の持ち回りで原則隔月第1金曜日に開催することにしていきます。幹事会にて検討中。

○仕事を語る会

6月下旬から7月前半の範囲で検討中。例年通りですと会場は館山「ゴンジロウ」です。皆様奮ってご参加ください。

○建築・街並み探訪

年2回程度(候補地：東金、市川、行徳、三里塚など)特に東金検討中です。

以上お問い合わせは事務局まで

事務局だより 久しぶりに街並み探訪で柏の葉キャンパスを歩いた。実は流山の住宅のリフォームで近くまで来ていたのだが、千葉から外環道路経由で通っているのだからこの辺りは通らない。柏といえば常磐線柏駅周辺をイメージしたが、このエリアは新都心だということがよく分かった。近々行くタカラショールームもLIXILもこのエリアにある。(加瀬澤)

新建千葉支部事務局：株式会社 ゆま空間設計

TEL:043-253-8801 FAX:043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行：千葉支部幹事会
編集：千葉支部幹事会
編集ワーク：中安博司

編集後記：前回に続き地球温暖化の影響ですね。5月だと言うに30℃近くになり、場所により30℃を超える場所もあります。材料や建築づくりから処分までエネルギーを抑えた方法を再考しなければならぬ時期が迫っています。(中安)